

令和4年度 林野公共事業事業評価有識者委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和5年2月20日（月） 10：30～11：45
- 2 開催場所 北海道森林管理局4階 中会議室
- 3 出席者 委員：丸谷委員長、庄子委員、西村委員  
局担当者：総務企画部長  
森林整備第一課長、森林整備第一課企画係長  
森林整備第一課企画係  
森林整備第二課長、森林整備第二課設計指導官  
監査官、監査係長

4 議事

- (1) 森林整備事業（事前評価3件）について

5 議事概要

（森林整備第一課企画係から説明）

（委員）

新規採択チェックリストⅡ優先配慮事項1（1）①健全な森林の育成について、Ⅲ～Ⅻ齢級の人工林面積に占める間伐計画面積の割合は資料のどこに記載されているのか。

（局）

Ⅲ～Ⅻ齢級の間伐計画面積の割合は資料には掲載していないが、石狩空知森林計画区は30%、上川北部森林計画区は26%、後志胆振森林計画区は33%となっている。

（委員）

新規採択チェックリストⅡ優先配慮事項1（1）①健全な森林の育成について、上川北部森林計画区のみB評価であるが、これまで適切に間伐を行ってきたため次期計画の間伐計画面積が少なくなっているとの理解でよいか。

（局）

そのような理解でよい。なお、上川北部森林計画区のみ間伐計画面積の割合が30%を下回るためB評価としたが、各森林計画区の割合に大きな差はない。

（委員）

「多段階評価判定に当たっての留意事項」の一部が空欄であるが、新規採択チェ

ックリストの前にあると判定方法について混乱が生じる。資料の順番を新規採択チェックリストの後に配置したらどうか。

(局)

今後はそのように資料の構成を変更したい。

(委員)

後志胆振森林計画区のB/Cが他の森林計画区よりも低い理由はなにか。

(局)

当該森林計画区は、施業（保育）計画量が他の森林計画区と比較して少なく、便益が増えなかったためである。

(委員)

更新の方法はどのように決めているのか。

(局)

成長量が高く、木材の生産機能が高い森林については、単層林として更新している。成長量の低い森林や公益的機能の発揮のために管理が必要な森林については、複層林として更新している。

(委員)

B/Cを算出する際の元となる便益や費用の単価について前回の評価時と比較して変化はあったのか。

(局)

労務単価、燃料代や資材経費等は毎年のように上がっている。一方で、高性能林業機械の使用などにより生産性を上げており、費用の単価は縮減している。

(委員)

森林計画区はどのように区分しているのか。

(局)

主要河川の流域を基本として、行政区域を勘案し、森林計画区を区分している。

(委員)

森林整備推進協定は北海道とも締結しているのか。

(局)

森林整備推進協定は市町村や地域の機関と締結している。北海道とは「北海道の

森林づくりに関する覚書」を締結している。

以上